

いのことなり、おほやけわたくしのだいじ、たゞいまこれよりほかは、なに事かはとみへたり、禪林寺の僧正などみなおはすとの、御前さらにいのおおしくも侍らず、さきん、世をまつりごち給人々おほかる中に、をのればかりさるべき事どもえたるためしはなくなん、東宮おはします、み所の后○一條天皇中宮彰子、三條天皇院敦明親王のにやうご、おはす、たゞいま内大臣にて攝政○頼つかまつる、又大納言にて左大將○教かけたり、又大なごん、頼あるは左衛門督にて別當かけ、信能この原脱、をのこの位家、長ぞいとあさけれど、三位中將にてはべり、みなこれつぎ、おほやけの御うしろみをつかうまつる、みづから太政大臣准三后のくらゐにて侍り、この廿餘年ならぶ人なくて、あまたの御門の御うしろみをつかうまつるに、ことなるなむなぐてすぎ侍ぬ、おのが先祖の眞信公、いみじうおはしたる人、我太政大臣にて、太郎小野宮○實のおとゞ、二郎右大臣○師四郎、師五郎、師こそは、大納言などにてさしならび給へりけれど、后たち給はずなりにけり、ちかうは九條のおとゞ○師わが御身は、右大臣にて、やみ給へれど、おほ后○安の御はらの、冷泉院圓融院さしつゞきおはしましたし、十一人のおのこゞの中に、五人○伊尹、兼通、兼家○爲光、太政大臣になり給へり、いまにいみじき御さいはひなりかし、されば后三ところたち給へるためしは、この國にはまたなきこと也など、よにめでたき御ありさまをいひつゞけさせ給ことし、五十四なり、えぬともさらにはちあるまじ、いまゆくすゑも、かばかりのことはありがたくやあらん、あかぬ事は、尙侍○嬉東宮○朱雀にたてまつり、皇太后宮の一品宮○禎の子御事、このふたことをせずなりぬるこそあれど、大みや○彰おはしましたし、攝政のおとゞいますすかれば、さりともし給事ありなんと、いひつゞけさせ給

〔古事談王道后宮〕宇治大納言隆國、後冷泉院御在位之間、誇朝恩無貳之故、奉爲春宮○後三於事頗有奇怪事云々、而受禪之後、爲思食多年之御意趣、於彼子息等以事次可被處罪科之由、有叡慮、于時